

君の夢プロジェクト

— ソフトテニス部 編 —

スポーツや文化活動に打ち込む
子どもたちの
夢をかなえるプロジェクト



ワタキューセイモア

百町 善明 さん

平成 28 年からワタキューセイモア株式会社ソフトテニス部の女子監督兼総監督を勤め、実業団選手権大会で女子チームを連覇に導く。



ワタキューセイモア

原口 美咲 さん

ワタキューセイモア株式会社ソフトテニス部の副主将として活躍。今年の全日本選手権で優勝し日本一に輝く。平成 12 年生まれ・福岡県出身。



ワタキューセイモア

村上 亜優 さん

今年からワタキューセイモア株式会社ソフトテニス部に所属し、各種大会で好成績をおさめる。平成 15 年生まれ・島根県出身。



9月14日・15日、町民テニスコートで『君の夢プロジェクトソフトテニス部編』が行われ、部員や少年団員ら延べ41人が参加しました。

このプロジェクトは、スポーツや文化活動の『プロ』による指導や講話を通じて、子どもたちが「本物」に触れることを目的としています。

今回は、ワタキューセイモア株式会社ソフトテニス部に所属し、8月末に開かれた全日本社会人選手権大会で優勝した原口美咲選手、全日本インカレ団体優

勝経験を持つ村上亜優選手、そして百町善明監督が来町。部員たちは、3人から直接技術指導を受けるという貴重な機会に恵まれました。

練習はグラウンドストロークからスタートし、乱打、レシーブ、ボレー、スマッシュ、サーブまで実践的なメニューを、選手と一緒に行いました。

百町監督は「指導者の考え方は人それぞれ。自分の頭で考えて、試しながら楽しんで練習することが大切」とアドバイスを送りました。

9年生の平尾紅葉さんは、サーブのトスに悩んでいましたが、原口選手から「手にひよこをのせて上げるイメージで」と指導され、実際に改善することができたとのこと。「一流の方に悩みを相談してアドバイスをもらえて良かった。生で見ると学び、実践することで技術が上がったのがわかりました。とても貴重な機会でした！」と笑顔で話してくれました。

二日間の集中練習を通して、子どもたちの表情には自信と達成感があふれていました。



- 1_ フォアハンドで打つ際のラケット角度について説明
- 2_ 自分の球の打ちやすいポイントについて説明
- 3_ 選手のカットサーブを実際にレシーブする部員
- 4_ サーブについて、マンツーマンで指導を受ける
- 5_ ボレーのコツを聞き、実践する部員